

市が策定した「みどりの環」経済戦略ビジョン・幸せ倍増計画は、庄原市の「強み・強い分野」である農村・農林業資源を経済の背骨にした域内経済循環を作り出し、市民所得の向上につなげ、安定した安心の暮らしを実現しようとするものです。

今月は、農村社会を見直し、「農魂商才」(\*)をキャッチフレーズに農業の再生を目指す「庄原市農業自立振興プロジェクト」の概要についてお知らせします。

※農魂商才とは

農業の魂を持ち、商の能力を高め、全国に庄原ブランドを行き渡らせ、定住社会を復活させたいという決意と願いをこめたもの。

今年からカボチャとエゴマの生産を始めた戸村勲さん・マサエさん夫婦（川西町）

Interview  
インタビュー  
「儲ける農業」を目指す



農林振興課長  
小笠原 洋行さん

## 庄原市の実態にあった農業施策が必要

庄原市は、広大な農地・里山、変化に富んだ気候条件など豊かな自然環境に恵まれています。農業は、産別の生産額でみると小さいですが、兼業農家も多く、全世帯の約8割が農業に関わっていると思われ、農業技術の蓄積を考えると庄原市の全産業を下支えする基

盤産業といえます。

しかし、近年は、農業従事者の高齢化・後継者不足・輸入自由化による農産物価格の低迷など多くの問題を抱えています。また、平成19年度から「新たな食料・農業・農村基本計画」により、国の農業施策は全農家を対象としていたものから特定の担い手だけを対象とするものへ移行しています。これは、庄原市のような小

規模農家が多い地域にとって、その実態からかけ離れた政策といわざるを得ません。そのため、庄原市独自の「農業自立振興プロジェクト」を策定しました。

庄原市の基幹産業は農業であり、庄原市の農業資源を最大限に活用し、農業によって継続的、安定的な収入が得られるようにすることが、地域の長期的な維持につながると考えています。

## 儲ける基盤（農業ブランド）を確立する

庄原市の農業の足腰を強くし、市民が儲ける農業を実現するために、庄原農業のブランドを確立することが課題の一つです。「地域ブランド」は、地域の特徴、伝統を生かし、際立たせ、統一イメージを作ることです。

庄原市の農業の特徴として、広大な農地・林地があること、和牛改良・飼養が盛んなこと、農地が標高約200〜700mに広がっていること、第2種兼業農家が約8割いること、4点が挙げられます。この4つを生かした農業の体系を作り上げることで、庄原農業のブランドを確立し、市民の儲ける農業の基盤ができると思います。

具体的には、耕畜連携などにより地域から出てくるものを地域で活用する循環型農業のしつかりした仕組みを作り、地域全体が安全・安心な農産物の生産に取り組むことにより、他にない庄原らしい特徴のある農業ブランドが形成されると考えます。そうした仕組みにより、ブランドになる土づくりを行い、土地利用型農業によって広大な農地を守つていくことができます。

## JA・農林振興公社とスクラム

プロジェクトの議論を通して、JAへの批判の反面、JAが持つ力、JAに対する期待の大きさを知りました。本市農家の約8割は、兼業の小規模農家であり、個人で販売ルートの開拓、魅力的な新作物の導入を行うことは、きわめて難しく、小規模農家にとって、農家集落が手をつなぎ、生産、販売を協同化することが必要です。農業を庄原市経済の基盤にするためには、ぜひともJAの協力が必要です。

しかし、JAの組織は大きく、強固なものであるがゆえに機動力に欠ける面があります。すなわち、産直、山菜販売、漬物などの加工品づくりなどの隙間農業ともいえる分野については、軽快に動ける組織の方が有利です。幸い、(株)庄原市農林振興公社が設立され、産直支援、山菜販売、インターネット販売などの取り組みが始まりました。

### 【基本方向】

地域資源を最大限活かし、幅広い連携と協働により、農家形態に応じた継続的、安定的な収入が得られる方向に、庄原市農業を再構築する。



「農魂商才」精神により、消費者に支持されるしなやかさで、きめこまやかな農業を確立する

### 【本市がめざす農業像】

- ・地域資源を活かした農業
- ・儲けるよろこびがある農業
- ・次世代へ受け継ぐことができる農業

また、標高差を利用した農業、山菜販売、産直マーケットといった隙間農業への取り組みを強めることも、庄原市の条件に適している。有力な手段になります。これらによって、安定した複合経営の多様な基盤が形成され、専業農家から兼業農家までを含む、老若男女それぞれに儲ける農業基盤、すなわち庄原農業ブランドが確立されると思います。



(株)庄原市農林振興公社  
事業本部長  
矢吹 正直さん

Interview  
インタビュー  
**自信を持って  
庄原産を  
アピール**

市内にある農林業関係の第3セクターをまとめ、効率化を進める目的で、昨年8月に市が100%出資した(株)庄原市農林振興公社を設立しました。関係の第3セクターの事業を継承すると同時に、農林産物の販売促進や山菜などの新規商品開発を進めることで、農林業の振興・所得の向上を目指して事業を展開しています。

これまで、広島市内の直売事業を継承し、野菜などを中心に販売促進を進めるために、庄原市内全域からの集出荷体制の整備に取り組んでいます。また、農作業の受託作業も継続するとともに、流通していない山菜などの商品化への取り組みも行い、すでに数多くの商品化に結び付けています。直売事業でお客様からよく耳にするのは「新鮮おいしい、おまけに安い」という言葉です。これは庄原の恵まれた自然環境の中で、高い農業技術と丹精こめた栽培により、レベルの高い農産物の生産が行われている



フラワーフェスティバルで庄原産の農産物を販売



公社が扱う新規商品

この証だと感じていきます。これからも庄原の農産物に自信を持ってアピールし「儲ける農業の実現」のために、市民の皆さんと連携を図りながら、さらなる事業推進に努力していきたいと考えています。

**公社での主な事業**

- ・ 広島市内（江波店）での野菜などの販売
- ・ 農作業の受託と効率的なシステムの開発
- ・ 山菜などの商品化と販路開拓
- ・ 農産物の新規商品開発と販路開拓
- ・ 林産物の新規商品開発と販路開拓

農林産物の販売や開発などに関する問い合わせ  
 (株)庄原市農林振興公社  
 庄原市東本町1-8-17  
 ☎(0824)725090  
 (FAX兼用)

■ **今年度の主な施策**

○ **農業者のやる気を支援 営農指導力強化**  
 販売農家を育成するため、市独自の営農指導員2人を配置し、各関係機関と連携して栽培から出荷までの相談に応じています。

儲ける農業モデルづくり  
 市内の農業者に対し、庄原市の環境に根ざした農業モデルの指針を示すため、平成18年度に県立広島大学と共同で行った市内農家の調査・分析結果を基に、「儲ける農業モデルガイドブック」を作成しています。

繁殖用和牛共同飼育推進事業  
 和牛産地ブランド復活を目的とし、牛舎建設、和牛導入を3戸以上の農業者が共同経営で取り組まれる場合、経費を補助します。

○ **将来を見越した農業施策 食農教育モデル事業**  
 農業後継者を育成するため、庄原市内の小中学校を



食農教育に取り組む口南小学校

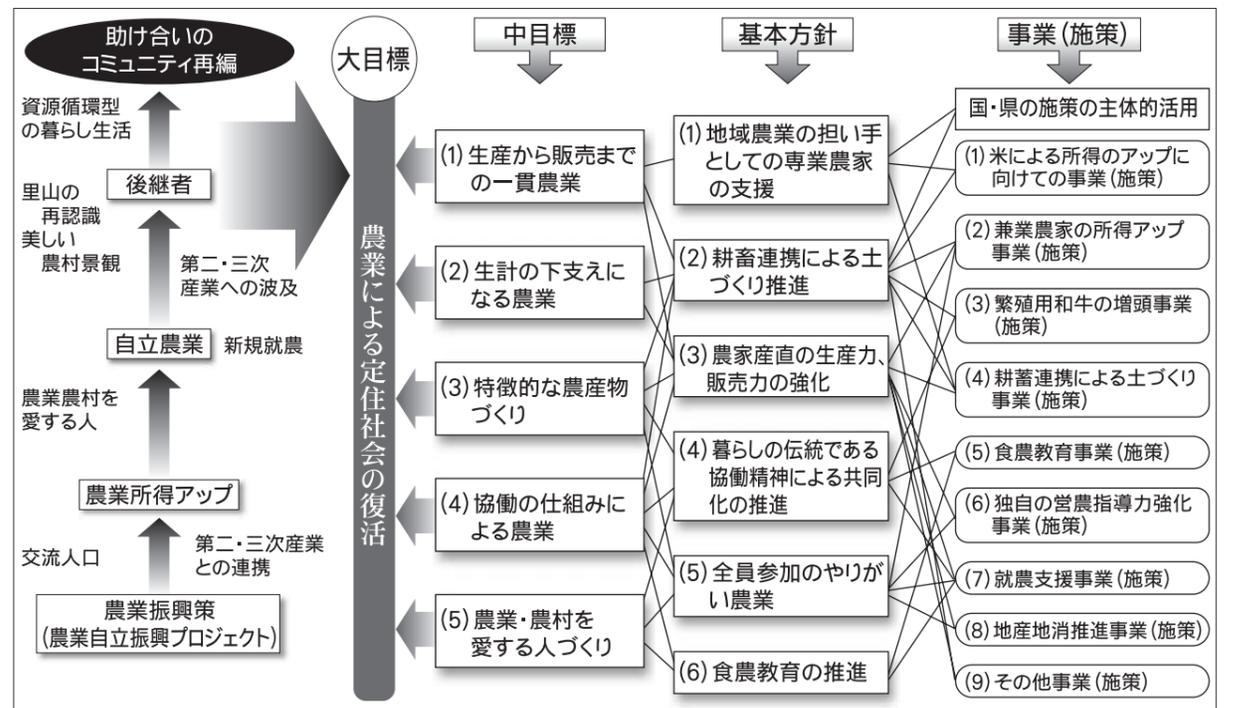
対象に、食農教育に関する取り組みを支援します。本年度は4月27日を期限に募集し、現在、6校が事業に取り組んでいます。

農業自立支援プログラム  
**実践業務**  
 農産物の販路開拓・新規作物・商品開発などの実践業務を強化するため、昨年8月に設立した(株)庄原市農林振興公社で、農家所得の向上を目指し取り組みをしています。

地域ブランド化事業  
 堆肥を活用した地域農業のブランド化・資源循環型農業を推進するため、堆肥利用、土壌分析に係る経費を補助します。



堆肥を田んぼに散布



## 皆さんの「儲ける農業」を支援します

庄原市は、さまざまな補助制度で、市民の皆さんのやる気を支援し、市内農業の活性化につなげます。

### ◆繁殖用和牛共同飼育事業

市内で3戸以上の農業者で組織する農業団体に、共同で繁殖用和牛の導入や牛舎の建設に要する経費を補助します。

### ○共同飼育和牛導入事業

**要件**  
・補助対象となる繁殖用和牛は、優秀基礎牛および基礎牛

・6頭以上の繁殖用和牛を共同飼育する場合（ただし、新規に飼育を始める場合は3頭以上）

### 補助額

年間導入繁殖用和牛6頭以内（新規は3頭まで）  
：1頭当り10万円以内  
年間導入繁殖用和牛7頭から（新規は4頭から）  
：1頭当り20万円以内

### ○共同飼育施設建設事業

### 要件

・6頭以上の繁殖用和牛を

共同飼育する場合（ただし、新規に飼育を始める場合は3頭以上）

### 補助額

対象経費の1/2以内

### ◆かたん就農塾事業

新しく農業を始めた人やこれから農業を始めようとする人で、広島県立農業技術大学校が主催する就農研修（基礎コース）を受講する人に、受講料の一部を補助します。

### 要件

・受講者が、当該研修を修了した場合に限る

### 補助額

対象経費の1/2以内

### ◆土づくりによる地域ブランド化事業

### ○堆肥利用促進事業

堆肥を利用した安心安全の農作物の栽培を推進するため、市内の農業者（農業団体）で対象の堆肥を年間1トン以上購入し農産物生産に使用している者（グループを含む）に補助金を交付します。

### 補助額

バラ売り堆肥…1トン当り1,000円以内

袋詰め堆肥…購入経費の1/2または1袋当り100円のいずれか低い額

### ○循環型農業推進土壌分析事業

農用地の土壌分析に要する経費を補助します。

### 要件

・事業主体は、農業協同組合とし、農業者から土壌分析を受託し行うこと  
・当該農用地では、家畜ふん尿堆肥を利用して農産物を生産し、循環型農業を推進していること  
・土壌分析の回数は、農用地1枚当り年2回以内とする

### 補助額

対象経費の1/3以内

\*この他にも、農業を支援するさまざまな補助制度があります。詳しくは、農林振興課活性化係

☎(0824)731227

または農林振興課振興係

☎(0824)731132

へお問い合わせください。

## 補助金で牛舎を整備しました

共同飼育施設建設事業補助金を活用



多飯が辻の会会長  
広谷 昌吾さん（東城町）

私の地域では、4年に一度公開される国の重要無形民俗文化財「大山供養田植え」などの行事もあり、和牛はなくてはならないものです。しかし、近年飼育農家の減少により、循環型農業の継続、伝統文化の継承が危ぶまれる状況です。そこで、当会は庄原市が実施している補助制度を利用し、牛舎を整備しました。

この事業に取り組み際、地域内ではさまざまな意見がありました。牛舎整備後、和牛を共同で飼育する意識は徐々に浸透してきています。今後この事業が、地域全体での取り組みとなるよう努力していきます。